

短期認定留学 体験談

外国語学部英米学科 嶽本 瑞希

1. 短期認定留学を申し込んだ動機について

私は応募時期には3年生で教職課程を履修しており、4年生には教育実習を控えていた。その為、「留学したい！」と思い立った3年生の時点では、半年や1年の長期留学をするには厳しい状況だった。このような状況で目にしたのが短期認定留学の募集案内で、これが最後のチャンスだと思い申し込むことを決めた。短期認定留学は、自分で留学期間を選ぶことができたことがとても良かった。



2. 留学前の準備について

留学前には、派遣先大学、ニュージーランドの観光地や名産品、また7年前にニュージーランドで起きた地震について調べた。地震の被害の大きさや復興の進み具合、心に傷を負った人達がまだいるということを事前に知っておくことは大切だと思った。

私にとってこの留学が初めての海外経験となるため、自分の身を守る方法について大学で危機管理セミナーを受けたり、海外経験のある知人に話を聞いたりしたことで、不安の解消や危機管理の意識を持つことにつながった。

また、持っていく物は最小限になるように努め、日用品は現地で調達するようにした。いつも使っている薬や、日本製の方が安心して使えるものは持っていくようにした。実際、ニュージーランドは気温の変化が激しく、1週間ほどで風邪を引いてしまったため、日本から持参した風邪薬は非常に役に立った。

私はこの留学のために初めてクレジットカードを作った。しかし、利用上限額を上げることを知らずに渡航したため、いつも利用金額を心配しながら生活していた。結果的には節約につながったが、現地でのアクティビティを思いきり楽しみたい場合には留学の予算に余裕が必要だし、利用上限額のことを把握しておくべきだった。さらに、カードを作った際に不備があったようで、滞在1ヶ月後にカードが利用できなくなってしまった。現地から連絡を取り、数日後に利用できるようになったが、カードの利用方法やシステムについてあらかじめ知っておくことが必要だった。

3. 現地での語学コースについて

○コースの内容(授業内容、良かった点、悪かった点、感想など)

2月10日から3月18日までの5週間、クライストチャーチ工科大学(Ara Institute of Canterbury)の語学学校に通った。様々な国から留学生が集まっていたが、現地は日本の



大学の春休み期間中ということもあり、日本人の学生が約半数いた。授業は午前9時から午後3時15分までで、昼休みは1時間だった。午前中は文法の授業で、午後はスピーキングとリスニングの授業だった。

入学初日にプレースメントテストを受け、その結果によって5つのクラスに分けられるため、自分のレベルにあった授業を受けることができる。私が入った Upper

Intermediate クラスは7人でディスカッションが中心の授業で、ある1つのテーマについて1週間かけて学んでいくという授業方式である。まず、そのテーマで使用される語彙を学び、次にディスカッションするために必要な文法や表現を学習する。それらをディスカッションの中で多用し練習することで、最終的には語彙と文法を完全に習得できていた。ユニットが終わる度に確認テストがあったため、毎回きちんと復習することができた。テーマは、睡眠がもたらす健康への影響や、食品の輸出入の際の環境コスト、世界の超常現象についてなど多岐に渡り、毎日新しい知識を得ることができて充実した内容だった。

クラスメイトは、韓国人、中国人、タイ人、チリ人など様々な国籍の留学生が集まっていたため、それぞれの文化について授業や休み時間に話を聞くことができた。また、大勢の学生が講義を聞くような受け身の授業とは違い、現地では少人数のため自分の意見をクラスメイトに向けて発信したり、授業中にプレゼンをしたりする機会が多く、以前よりも話す能力が身に付いたと思う。

金曜日は午前中みの授業だったため、午後からアクティビティに出かけることができた。大学が留学生向けに様々なアクティビティを計画しており、通常より料金が安く参加することができたり、大学からのバスが手配されていたりと利用しやすく、毎週多くの留学生が集まっていた。このスクールアクティビティでは、他のクラスの留学生と話すことができ友達が増えた。私は、ゴンドラに乗ってクライストチャーチを一望したり、動物園で絶滅危惧種のキウイを間近で見たりと、とても貴重な体験をすることができた。その際には大学のスタッフも付き添いで、ガイドをしてくれたので安心して楽しむことができた。

4. 滞在先について(良かった点、悪かった点、感想など)

留学した5週間、一人暮らしのおばあさんのところでホームステイをさせてもらった。住んでいる地域はとても静かで治安もよく、またバス停やショッピングモールが近く、過ごしやすかった。大学まではバスで15分、徒歩15分ほどだった。しかし、雨の日や月曜日は道が混雑して、バスで30分以上かかる時もあった。

朝7時に起きると、ホストマザーがトーストを焼いて待っていてくれた。夕食はニュージーランド料理が中心だった。また、主食にはお米を必ず用意してくれた。夕食



の時間には、一日の出来事や日本のことについて話した。ホストマザーはいつもゆっくりと話し、私の英語を一生懸命理解してくれようとした。私が話したいことが上手く文章にできなかったり、文法が間違ったりした時には、ホストマザーが毎回訂正して、練習させてくれた。夕食後には、学校の宿題を手伝ってくれて、質問にも丁寧に答えて必ず褒めてくれた。このホストマザーとの会話で、自分の英語が通じるようになり自信がついた。

5. 現地での生活全般について

滞在したクライストチャーチでは、毎週イベントが開催され、週末がとても充実していた。中国の新年の祭りや、日本文化の祭り、花火大会などが開催され、現地の人々は「今が、ここを訪れるには一番良い時期だよ」と話していた。



この街では、バスが主な移動手段となっていた。中心地に「バスインターチェンジ」があり、そこを拠点に各地に向かってバスが運行していた。バスには色や番号がついていて分かりやすく、観光や初めて向かう場所でも安心して利用することができた。この市内バスを利用するにあたって便利だったのが「メトロカード」である。カードにお金をチャージし、乗車の際に機械にタッチすることで1人4ドルのところを2.5ドルで利用できる。さらに、1日3回目以降の乗車は無料、1週間で11回目以降の乗車は無料になったため、週末は何度もバスを利用して様々な場所に出かけることができた。

6. 短期認定留学をして、学んだこと、自分が得たもの、参加前の自分とどう変わったか等

この留学では、様々な国籍の人と関わる機会があった。お互いの母国語を知らなくても、英語を使ってコミュニケーションをとり、友達になって初めての場所に出かけたり、お互いの国について話したりして、自分の生活の中で英語がとても重要な要素になった。また、知らない人に対して英語を使ってコミュニケーションをとることに抵抗がなくなり、自分の英語に自信がついた。しかし、学校の授業では聞き取った内容の理解に苦しんだり、うまく表現ができなかったりしてもどかしい思いを何度もした。自分の不足している語学力について身をもって知ることができ、これから英語を勉強するにあたってのモチベーションになった。

また、様々な景色を見たり色々な人と出会ったりすることで、世界には自分の知らないことが沢山あることが分かった。これからは、日本だけではなくもっと世界中で起こっている出来事について知り、視野を広げていきたいと思った。

留学先で出会った何人かとまた会う約束をした。英語の勉強だけでなく、出逢いの大切さを実感した5週間だった。不安なこともあったが沢山の人の助けられ、安心して勉強を続けることができた。この留学を経験して自分に自信が付き、機会があればまた海外に出てみたいと思った。

7. 短期認定留学プログラム全体に対する感想、反省

このプログラムでは、先にも述べたように自分で留学期間を選ぶことができた。留学費用は不安要素の一つだった為、個人の予算に応じて期間を選ぶことができたことはとても良かった。語学学校には私と同じように春休みを利用して短期留学に来ている日本人学生が多く、困ったことがあった時には助け合うことができて安心した。しかし、日本人学生の友人が増えるにつれて、日本語を話す時間も長くなってしまい、学校のアクティビティに参加して自分から英語を使う機会を作っていくことが大切だと思った。

8. 休暇のプランの立て方や行った場所など詳しく教えてください。

休暇のプランは、ホストマザーや学校の先生におすすめの場所やアクセスの方法を教えてもらっていた。また街中には観光案内所があり、そこを利用してバスを手配してもらっている学生もいた。

クライストチャーチ市内には徒歩圏内に観光地があり、教会や博物館、美術館はよく訪れていた。さらに、バスを利用するとサムナービーチやニューブライトンという大きなビーチや、ウィロウバンクというキウイを見ることが出来る動物園に行くことができた。また、レンタカーで国際免許を持っている日本人の友人に運転してもらい、クライストチャーチから離れたアカロアという湖沿いの町や、星が綺麗に見えるというテカポ湖に行った。

9. ニュージーランドに持参した現金の金額とカードで使用した金額はどれくらい？

現金で約5万円を持参し、クレジットカードで約8万円使った。日本より食べ物の物価が高く感じた。そのため、毎日の昼食や週末の夕食にお金がかかり、昼食にフルーツを摂ったり比較的安いお店を利用して節約した。主に、日帰りの旅行費やアクティビティへの参加費にかかったが、現地ではできない体験であるためこの点については節約を考えないようにした。

10. 今後派遣される学生へのアドバイス

留学前には、留学する国のことに加えて日本のことについてもよく調べていく必要がある。ホームステイ先や授業で、日本について聞かれる機会が多かったが、すぐに答えることができなかった。自分の国について英語で説明し、他国の人へ紹介できる能力はとても大切だと思う。ニュージーランドのWi-Fi環境は日本ほど整っていなかったが、周りの友人が緊急時には貸してくれたり、自分で地図を読み取って新しい場所に向かったりしたため、生活に困るようなことはなかった。普段、スマートフォンに頼りすぎている生活を反省した。留学期間中は携帯に頼らず自分の力で生活することも、新しい場所を発見したり、新しい人に出会えたりして得るものが多いと思う。

